

横浜市瀬谷区における区民文化センター基本構想検討委員会（第2回）

日時：平成26年12月24日(水) 13:30～16:00

場所：瀬谷区役所5階大会議室B

議事次第

1 開会

2 議題等

(1) 第1回委員会の振り返り

(2) 事務局による資料説明

(3) 意見交換

- ・瀬谷区の区民文化センターのめざす姿について
- ・区民文化センターの機能配置や施設構成について
- ・区内の文化芸術活動の展開について

(4) その他

3 閉会

資料目次

資料 1	横浜市瀬谷区における区民文化センター基本構想検討委員会第1回振り返り
資料 2	瀬谷区の区民文化センターのめざす姿について（たたき台）
資料 3	横浜市瀬谷区における区民文化センターの機能配置や施設構成のイメージ
参 考 資 料	1 区民文化センター、公会堂、地区センターの違いについて
	2 横浜市の区民文化センターの利用料金比較表
	3 瀬谷区内及び周辺の文化施設、福祉施設
	4 横浜市公共建築物マネジメントの考え方（概要版）
	5 東京都美術館に関する資料（当日配布）
資料外	座席表

横浜市瀬谷区における区民文化センター基本構想検討委員会 第1回 振り返り

I 基本理念、コンセプトについて

1 検討の際に考えたいこと

- ・瀬谷区の区文センターは“何を特色にするのか”、“何を拠り所にするのか”がしっかりしていないと、使う人も運営する人も一般論のせめぎ合いになってしまう。
- ・アクションにつながる基本理念を作る必要がある。
- ・未来に向けてどういう場にしたいのか、地べたから湧いてくるような「瀬谷ってこうだよな」というようなキーワードがみつけれられると良い。
- ・10年や15年育てて、返ってくるようなものを打ち出していければ。
- ・例えば都美術館では「創造と共生の場」では堅いので「アートコミュニティを作ろう」という言葉にした。

2 地域の文化施設とは

- ・各地域の活動の状況を反映させていく。
- ・地域活動のひとつとして文化活動がある。
- ・地域で普段活動している方のその活動の場が必要。

3 瀬谷区での文化芸術活動について

- ・ただ鑑賞するだけではなく、当事者として関わりしろがある、何か集って価値観をつくっていきけるというようなことを。
- ・瀬谷区でも芸術、文化に対する意識を変えたい。
- ・芸術や文化を充分に楽しめることは贅沢ではない。生きがい、生きる力になるものを区民文化センターで作りたい。

II 施設の機能（ハードウェア面）について

1 区民文化センター全体にかかること

(1) 瀬谷らしさについて

- ・瀬谷区の方々がやりたいものに合わせた施設をつくることができるとよい。
- ・機能だけを追求するのではなく、そこに木、紙などの和の文化を取り入れて欲しい。
- ・暖かいかたちの、瀬谷区独自のオリジナリティがある区民文化センターに。

(2) 将来への対応

- ・現在だけではなく将来のニーズにも合うものに。
- ・可変性、柔軟性を持った施設にしていくべき。
- ・運営側も利用者側も、その都度工夫しながら使っていく必要がある。
- ・20～30年使える施設は、どのようなものなのか考えていけると良い。
- ・設備や機器はどんどん新しくなる。最初は立派でも、立派すぎて替えられないということも。
- ・持続可能性と可変性をどう組み合わせるか。
- ・地域性を汲んで考えていかななくてはならない。
- ・あまり枠を広げすぎないで、かつ未来に転化できるようなものであれば。

(3) 施設配置について

- ・相鉄沿線に大きなギャラリーがない。ゆめはま 2010 プランの三館構想に瀬谷区は入っていない。
- ・相鉄沿線にも出展者や美術に関心の高い人がいる。
- ・美術ギャラリーができれば、大和市も含め相鉄沿線のアート交流に繋がる。
- ・相鉄沿線の美術団体と交流を考えており、今後大きなイベントも考えられる。

(4) 公会堂との役割分担

- ・公会堂があることを踏まえると、足りない物は小さなホールと展示施設ではないか。
- ・瀬谷公会堂と区民文化センターの違いを明確に出すべき。
- ・公会堂と区民文化センターとの役割分担は大事。

(5) 社会包摂

- ・社会包摂（ソーシャルインクルージョン）という考え方が文化庁の方針の中でも示されている。新しく作る施設なので、そうした基本的な考え方を前提に検討したい。
- ・障害者も高齢者も若い人も子どもも使いやすい区民文化センターであるべきと思う。
- ・都美術館の理念でも、障害者の方の作品展示や鑑賞者の機会を設ける、子どものミュージアムデビューや高齢者の方をサポートする等、社会包摂を意識している。

(6) ユニバーサルデザイン

- ・構想から実施設計に入る際には、高さや段差等への配慮を。
- ・利用者が高齢化しているので、高齢者に配慮した構造に。

(7) 近隣への配慮

- ・防音等、駅の近くなので近隣の方に迷惑を掛けないようなものに。

(8) 整備時の考慮

- ・どこの施設でもランニングコストについては悩んでいる。税金を使うことなので、多大なランニングコストをどうカバーするか。利用者に負担させるわけにもいかない。バランスを考えないといけない。
- ・設備はあればあるだけ良いものができるだろうが、それを全部実現するのは難しい。

2 ギャラリーについて

(1) ギャラリー機能と規模

- ・一番足りないものは展示部門。
- ・美術展の250の出展数を受け入れられる施設を。
- ・大きな作品の展示できる会場に。
- ・現在は、区内に小規模な展示をする場所がなく、区外で発表している。
- ・区内には絵手紙、民芸工芸品をやっている人も多いが発表の場がない。

(2) 多目的性

- ・置き舞台等の利用による小規模な舞台や式典などへの対応を。
- ・500㎡、600㎡といった広さを間仕切って使えると良い。
- ・多目的、多用途な機能について考慮を。

(3) バックヤード

- ・展示の準備のため、バックヤード等の施設整備がしっかりしていないと、表側も使いにくい。

(4) 高齢者対応

- ・利用者が展示する際に自ら機器を操作する場合、高齢者も安全で使いやすい配慮が必要。

3 音楽ルームについて

(1) 小規模な発表の場

- ・小さな規模でのコンサートの場を。気軽に足を運べるようなものを。
- ・小規模なホールなら、1人2人の生徒でも発表会ができる。それならやってみたいというピアノの先生も瀬谷区にたくさんいるし、施設ができればそうした人たちが瀬谷に集まってくる。
- ・100人規模の懇親会ができるホールが欲しい。ホールができれば利用方法は色々考えられる。
- ・例えば目黒のホールのように、席が移動でき平土間でパーティや賀詞会にも使用できるものを。

4 その他の機能について

(1) 練習・交流・学習等の機能

- ・防音のブースがあると、楽器の練習等を通じて青少年の交流につながる。
- ・発表の場だけでなく、練習や交流の場があれば、多世代の交流やコミュニティ形成が進む。
- ・文化や歴史を学んだり、食の伝承などを行ったりと、色々なことで集まれる場があると良い。
- ・芸術鑑賞後にフロアでコーヒー等が飲めるようなカウンターがあると良い。

(2) 若い人への対応

- ・乳幼児を預かる場所があると、若い人たちも文化活動に参加できる。

(3) 伝統芸能について

- ・瀬谷の伝統的なものをどこかに残していけないといけないと思う。
- ・伝承の場をセンター内に置くことも考えるべきなのでは。
- ・伝統芸能の支援のありかたについては、慎重に考えないといけないところもあるが、黙っているとなくなっていくかもしれない。
- ・施設が行っている伝統芸能に対する支援の事例としては、座・高円寺等がある。

Ⅲ 文化活動の展開（施設の運用、ソフト面）について

1 福祉との関連

- ・福祉と文化をミックスしたものは、瀬谷区ならではの新しい活動になると感じる。

2 高齢者への対応

- ・瀬谷の高齢者は元気で色々なことに挑戦しており、高齢者がこういう場を使って美術、芸術の取り組みを作る場所があれば、全体的な活性化につながるのではないかと。

3 若い人への対応

- ・瀬谷区を若い人が住みたいという場所にしたい
- ・高齢化が進んでいるので、若い人の取り込み方が課題。子供と一緒にやって取り組むことを考えるのが大事。子供と高齢者が一緒に楽しむイベント等ができる施設に。
- ・若い人たちは、技術を身につけたらどんどん瀬谷を出て行ってしまふ。
- ・働き盛りの人も子供を通じて取り込むなど、活動に参加していない人をどう取り込むか。

4 障害者への対応

- ・文化施設という部分で、新横浜のラポール並みのものが瀬谷区にもあると良い。
- ・瀬谷区は、市内で障害者手帳の持ち主の率が高い。
- ・養護学校、支援学校は4つある。障害者も一緒に楽しめる場であると良い。

5 敷居の低さ

- ・杉田劇場は、小さな子ども達もホールに出入りできるような敷居を低くする工夫をしていた。
- ・東京都美術館もアートへの入口を目指す、ということ考えた。敷居の低い美術館、入口になって、創造と共生の場になる。

6 利用料金について

- ・利用料は学生にとっては高い。学生向けの割引のようなものがあるとよい。

Ⅳ 地域性、独自性について

1 周辺活性化について

- ・瀬谷駅前に施設ができれば、町全体が活気づいて発展するのではないかと。
- ・人を集めることで周辺も潤ってくる。美術展等に人が集まることで付帯効果も出る。

【めざす姿】（案1）

瀬谷の未来につながる文化を育む

＜説明＞ 区民文化センターは、現在の区民ニーズのみならず未来の区民への贈り物です。文化は街のシンボルであり、区民の心の拠り所でもあります。区民文化センターは地域の文化を育み、瀬谷区の未来を作り出すことに貢献していきます。

【めざす姿】（案2）

みんなのふるさと瀬谷に広がる文化のつながり

＜説明＞ 瀬谷区は地域や人々のつながりが強い区です。区民文化センターは、瀬谷区の空間と時間を共有して、地域での活動を支援し、あらゆる人々を、文化でつないでいきます。

[視点 1]

文化活動への参加機会

区民が文化活動に参加することが、ごく当たり前に行えるような環境整備

＜説明＞ 文化活動への参加は、生きがいがづくり、コミュニティづくり、健康づくり等様々な効用が生まれます。区民が文化活動に参加するための環境を、総合的に整えていきます。

[視点 2]

まちの誇り

輝けるわがまちの文化の構築

＜説明＞ 瀬谷区の文化が、区の現在と未来を照らし出します。瀬谷区が文化によって輝き、人々は自らの街に誇りを持ちます。区民文化センターの活動が瀬谷区ならではの特色ある文化を生み出し、発信していきます。

[視点 3]

絆 ～さまざまな活動との連携

福祉や教育、環境など様々な地域活動との垣根を超えたつながり

＜説明＞ 地域社会は様々な課題を抱えていますが、それらに対して文化活動は多様なアプローチを示していきます。多様な人が多様な人と相互につながりあい地域における絆を生み、互いに支え合う地域社会をつくり出します。

[視点 4]

誰もがいきいきと活動する ～社会包摂

誰もがいきいきと暮らせる区づくりに貢献

＜説明＞ 誰もがいきいきと暮らすためには、地域社会において、居場所と自らが社会に役立っていることを実感する機会が重要です。文化活動は多様なあり方を通じて、社会的弱者に対して社会参加の道を提供します。

[視点 5]

瀬谷のまちを育む ～地域活性化

区内経済への波及効果を生むことにつながる文化活動を展開

＜説明＞ 文化活動は経済活動を伴うものであり、地域への一定の経済効果が期待できます。地域作業所等との連携や商店街との協力により、地域の経済への波及効果につながる文化活動を展開することで、地域活性化に貢献します。

[視点 6]

敷居の低い施設

誰もが気軽に訪れ、文化を楽しみ交流できる拠点

＜説明＞ 文化芸術についてこれまでなんか難しいものと敷居を感じていた人たちに対して、本来文化は堅苦しくも難しくない楽しいものであることを感じてもらい、文化のすそ野を広げていく取組みを進めていきます。

[視点 7]

区のアイデンティティ ～独自性

瀬谷区の、そして日本の、アイデンティティを持った施設

＜説明＞ どこにでもあるような画一的な施設ではなく、瀬谷区ならではの特長、独自性を持った施設であることが、瀬谷区の文化的アイコンとして存在するためには重要です。

[視点 8]

文化を次代につなぐ

歴史や伝統などの瀬谷区の文化を先達から次代への継承と発展

＜説明＞ 地域の伝統や歴史は地域の文化そのものです。文化を伝承するための担い手不足等が語られる中、継承と発展のための仕組みをつくることで、文化を残すのみならず、地域コミュニティ形成にもつながっていきます。

[視点 9]

柔軟性と可変性

利用に応じて変化できるしなやかで弾力的な施設

＜説明＞ 区民文化センターの利用のしかたは十人十色です。さまざまなニーズに応えられるため、利用者にとっても運営者にとっても柔軟に対応できる施設であることが必要です。また、数十年後も変わらず利用できるよう、改修、更新しやすい施設であることも重要です。

[視点 10]

区全体での文化振興

センター内だけではない開かれた活動

＜説明＞ 地域の文化振興は区民文化センターだけで行っていくものではありません。公会堂や地区センターなど区内の各施設や学校などとも連携、協力しながら、展開してしていきます。

区民文化センターの機能配置や施設構成のイメージ

● 瀬谷の特徴的機能

○ 区民文化センターの標準的機能

施設機能	第1回でいただいた主な意見	施設構成（素案）
ギャラリー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 250 作品規模の展示会の対応 ・ 大きな作品の展示対応 ・ 間仕切りによる分割対応 ・ 小規模な舞台や式典等への対応 ・ バックヤード機能の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ● 絵画、写真、彫刻などの展示に、可能な範囲で、広いスペースを確保したギャラリー ● 分割型ギャラリー ● 多目的に利用できるギャラリー
音楽ルーム （リハーサル室）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 100 人規模のコンサートへの対応 ・ 小規模な舞台を設置できる仕様 ・ 平土間による式典やパーティー、賀詞交歓会への対応 ・ 残響を考慮した設計仕様 ・ 他の諸室や近隣に対する防音の配慮 ・ バックヤード機能の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ● 100 人規模のコンサート対応 ● 他の機能（展示、パーティー等）を補完できるスペース ○ 演劇、ダンスなどの練習、発表が可能な仕様 ○ 防音対応
練習室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他の諸室や近隣に対する防音の配慮 ・ 多世代の交流やコミュニティ形成に働きかける機能 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 防音対応 ○ 小グループでの音楽練習に適した仕様
会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化や歴史の学習や食の伝承等、多目的な活動を実施できるスペース 	<ul style="list-style-type: none"> ● 多機能、多目的な会議室 ● 他の機能（展示、パーティー等）を補完できるスペース ○ 創作ワークショップ、アート講座（文化や歴史の学習、食の伝承等）のためのスペース
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設全体として、高さ、段差等、ユニバーサルデザインへの考慮 ・ 100 人規模の懇親会等の対応 ・ 木、紙など、和の文化への考慮 ・ 喫茶カウンター ・ 乳幼児の預かり機能 ・ 瀬谷の伝統芸能の伝承機能 	<ul style="list-style-type: none"> ● 一時託児機能 ● 地域の文化伝承コーナー ● ホワイエなどの有効な壁もギャラリー機能として補完できる仕様 ○ コンサート時での飲物提供、飲食できるラウンジ機能 ○ 高さ、段差等、ユニバーサルデザインへの考慮